

長岡京市立長岡第四小学校（京都府）

1) 活動の目的及び教育上の位置づけ

本校が教育研究において育てたい児童の姿は、「課題解決への見通しを持ち、他者と関わり合いながら、探究的に学び続ける児童」である。4年における「Stop! 地球温暖化」の学習は、本校が積み重ねてきたエネルギー環境教育の基盤を受け継ぎ、未来のエネルギー問題解決の担い手を育てる意味において、大切な探究学習として構成されている。また、エネルギー問題の視点から「街づくり」の視点に発展するように、学年を横断するように単元構成が組まれており、本校の特色と言える。

2) 具体的な学習・活動と教育活動費の利用内容

実施月	対象学年	活動計画	希望支援内容
5月	5年	総合的な学習の時間の一環として、阿倍野防災センターにて、災害時のエネルギー確保について学習する。	交通費
5月	4年	総合的な学習の時間の導入に、専門家（気象キャスターネットワーク）から講義を受ける。	講師謝礼
5～2月	全児童 家庭	「グリーンカーテンチャレンジ」として、家庭でゴーヤを育て、地球温暖化への啓発活動を行う。また、学校農園でも子ども貸農園を行い、地産地消の楽しさを味わう。	教材費 栽培道具
10月	4年	人感センサーLED やサーキュライトなどで、節電タイプの家電があることを知らせる。	教材費
12月	4年	総合的な学習の時間に、専門家（京都大学准教授）から講義を受ける。	講師謝礼

3) 学習・活動を通じての成果・効果

本校は、京都府小学校教育研究会総合的な学習の時間部の研究協力校として令和4年度からの三か年、生活科と総合的な学習の時間の研究に勤しんできた。個々の児童が課題を設定し、探究活動を行っていく過程に、より上質の調べ活動や人との出会いが大切だと考えている。

4年生の総合的な学習の時間は、「Stop 地球温暖化」と称して、自分たちの生活をどのように変えれば、二酸化炭素排出を減らすことができるのかという難しいテーマに挑んだ。導入では気象キャスターネットワークの堀奈津子氏に来校いただき、気象予報士という立場から、気候変動について分かりやすく解説していただいた。その結果、児童に「なんとかしなければ」という危機意識と、「今なら間に合う」という展望を持つことができた。学校の教員にはできない、質の高い専門的なお話をプロのプレゼンテーションによって、児童の課題意識を高めていただいた瞬間であった。

また、探究学習の出口に近づくと、京都大学の廃棄物の専門家大下和徹准教授から、個々の児童からの質問や疑問に答える形で、一地域だけでは到達できない専門的でグローバルな視点でも講義を受けることができた。

5年生においては、南海トラフ地震を想定した防災学習を展開し、その中で、命を守ることの大切はもちろん、被災した時のエネルギー源確保の大切さを学ぶことができた。特に、電気エネルギーの確保が重要で、携帯電話の充電の有無が死活問題に発展することにも衝撃を受けてい

た。

全校児童と家庭を対象とした「グリーンカーテンチャレンジ」も2年目の取組であった。ゴーヤの苗は、市の緑の協会から寄贈していただき、たくさんのお家でグリーンカーテンに挑戦していただいた。また、同時に、学校建築のため利用できなかった学校農園が復活し、地産地消につながる子ども貸農園を実施した。土地は学校の畑を借り、育てた野菜は家に持ち帰り、食卓を彩るという計画である。夏野菜 Version と冬野菜 Version を実施したが、どちらも場所が足りなくなるほどの大盛況であった。

専門家の方に出会ったり、本物の体験をしたり、机上や net 上だけでは到達できない学習の場や環境を提供することができた。

4) 2025 年度以降の活動計画や方向性

次年度以降も4年生の総合的な学習の時間における地球温暖化防止を取り上げた探究学習は継続する予定である。支援を継続していただけるなら、気象キャスターネットワークの堀奈津子氏の出前授業からの学習展開を想定したいが、そうではない場合は、別の導入を考えなければならない。いろいろと試みてきたが、堀奈津子氏のプレゼンがベストであり、児童のモチベーションへの影響が大きかった。

おそらく5年生の学習においても、防災学習を中心に据えた展開を実施するはずである。そこには、ライフラインとしてのエネルギー源確保が必然であり、地域や行政から、どのような学びがあるのか楽しみである。

方向性として大きな流れは変わらないと思うが、学校現場はマンパワーの影響が大きく、意識やスキルの変化は、そのまま活動の継続へも影響をもたらす。